

景況実感調査(2020年6月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 22日稼働となるも得意先が時短、リモート、稼働日減等の施策を導入している影響も大きく、売上、数量共に対前年比10%以上の減少となった。報道によれば中国は増産に移行し、目先の需給は引き締まっているとの事だがいつそれが輸出ドライブに変化するかも注視する必要がある。8,000万トン時代が現実化するとしても、これ程急激な変化を短期間で受け入れる事は不可能で、大きな業界再編は避けられないのか？
- ② 月を追うごとにコロナの影響が出てきており、6月は5月より営業日が多かったので販売量としては前月を上回ったが、日割りの販売量で比較した場合は5月より6月が10%減となり、どんどん販売が落ちている状況。
- ③ 6月は経済活動再開の影響もあり前月比増加となった。極めて厳しい状況ではあるものの、少しずつ前向きな動きが出てきているように感じている。製造業向けの回復には時間が掛かると思われるが、内需主導で回復を期待する。
- ④ 需要家にヒアリングしても先々いい話も無く、見通しは立たない状況。安値玉の案内があるが買わない。在庫圧縮に努める。安売りも散見されるので販価下落は避けられない。
- ⑤ 6月は稼働日数が5月より多く、その分加工数量が増えた。内容はまだまだだ。

中板

- ① 6月は売上、加工共に前月を上回ったが稼働日数が増えたことによるもので、日当たりでは前月に引き続き需要不振は変わらず、業況は停滞している。依然として市況レベルを大きく下回る安値玉は散見されるが、アジア相場の反転や国内メーカーの売腰の変化もあり、また全体在庫量の顕著な減少は見られないものの一部には歯抜けも見られるとの情報もあって、トヨタを中心に7月以降当初計画に回復する見通しもあることから、需要が少しでも回復してくれば市況の好転も期待できるのではないか。あと暫く我慢の上、景況が好転することを期待したい。

厚板

- ① 売上数量、金額ともに5月の数字が極端に低かったことから両指標の前月比は10%増加したが、前年度同月比では3割内外の減少となっている。主要ユーザーが稼働を落としていることから、当社の受注も低迷が続いている。一方、ユーザーの中には帰休を継続したまま生産量を回復させようとしている先もあり、こうしたユーザーの生産計画変更による短納期要求への対応に苦労している。素材販売も低迷しており、価格の下げ圧力も継続している。ユーザーからの生産計画が秋口までのものしか入手できておらず、先行きの見通しが立たないのが実情である。
- ② 客先から製鉄メーカーへの値下げ要求が強まっており、それを受けて切板の価格も値下がりをしている。一時回復基調を見せたスクラップも再び下げに転じ、苦しい状態が続く。

一舟爰开形鋼

- ① 前月比営業日数が1週間増えて表向き回復傾向にあるも、1日当たりに換算すると売上数量・売上高・収益状況はそれぞれ35%、20%、25%前月比減。この半年間の月別推移は低位安定というより低位跛行というべきか。

工工开形鋼

- ① 6月の倉出しは前月比増加したが、前月は悪く良い数字ではない。土木向けの引合いは多少増えたが、メーカー値上げの転嫁ができていない。
- ② 6月の売上数量は大幅増も稼働日の増加によるところが大きく、需要が増えた実感はない、オリンピック開催予定時期を控え、7~9月の需要の増加は期待できず我慢の時期になると思われる。しばらくは数量を追うことなく、価格重視でメーカーの値上げの転嫁に注力するしかない。

異形棒鋼

- ① 6月は稼働日数が多く期待したが、5月に引き続き低調で業績は悪い。新規中小物件が少なく、売上の確保が難しい上に在庫販売も低調で、粗利が稼げず減収減益が続いている。
- ② 今後、益々厳しい状況になると予測している。
- ③ 浦安仲間店売りは4月、5月の大幅なダウンから6月、7月は戻った。中の下くらいか。8月、9月は厳しいと思っている。仕入れ、在庫、経費の見直しを続ける。市況は横這い。

平鋼

- ① 6月に入っても荷動きは回復せず大きく減少したまま。スクラップの上昇によりメーカーは足並みを揃え値上げとなったが、値下がり止まったものの価格転嫁という雰囲気はない。また、直近スクラップが下がりつつある事も値上げを難しくしている。今後、秋以降の需要に期待しているが、まずは足下の在庫適正化に注力していきたい。
- ② 5月は稼働日も少なかったので増加傾向になった訳でもなく、日割りにすると低位横這い。足下、目先も良い話は無く、メーカー値上げが重くのしかかる。お客様にご理解いただきながら徐々に値上げを実行していきたい。

車重量开形鋼

- ① 日数が増えたので前月比は増加したが、日当たりではマイナスだったため商売自体の盛り上がりはまったく感じられていない状況だ。
- ② 前月比ではやや回復状況であるが、前年比の減少が大きい状況は変わらず。先行きも期待薄である。
- ③ ライン修理が終わり、加工対応を開始したことにより数量は増加したものの、状況はあまり良くない。

鋼管

- ① 日割り出荷は3月からほぼ変わらぬ低水準が続いている。7月以降はやや上向くと思われるが、予測ができない。

構造用鋼

- ① 需要環境は、米中貿易摩擦にコロナ禍の影響が重なり市中の荷動きは振るわず、例年を下回る状況。自動車、建機、工作機械と実需が落ち込んでいる。先行きも不透明感が強い状況。在庫は高止まっており、調整局面が続くと思われる。価格については、当面横ばいの展開が見込まれる。

磨棒鋼

- ① 稼働日の違いにより先月より数量は増えたが、日割り出荷量では5月より落ち込んでしまった。在庫調整により量は減少してきたが、出荷が極端に少ないことから在庫率は急激に増えてしまっている。6月が底ではないかと思っていたが、現状では7～9月にかけてもう一段下がるような雰囲気。雇用調整助成金の制度を最大限利用して耐えるしかない。

その他

<二次製品倉庫>

- ① 前年同時期は現材料不足で製品不足だった。今時は現場縮小のため不足気味の供給が増えるという皮肉だった。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップ相場は5月下旬より無い物高で急伸し、高値を維持することなく6月下旬より急落。7月は相場の安定を予想すると同時に願うばかり。

<金属表面処理加工>

- ① 6月は5月と比べ客先の操業が通常に戻ったことにより紐付き、物件物共にほぼ予定通りの処理実績となった。スポットも同様に回復。6月中旬より引合いも増加傾向にあり、7月も同水準で推移の予定。